



撮影練習で取材相手役の旭小  
・鈴木立子先生㊨の撮り方を  
指導する小嶋カメラマン

中日新聞  
+プラス  
教育関連の記事をまとめ  
読みできます。



先生役を務めるのは、豊橋総局の小嶋明彦カメラマン（三毛）。入社十五年目で、一瞬のミスが命取りになるプロ野球の撮影経験もある。愛知県の東半分を占める三河地方の

話題を行い、カメラ片手に海上へ山へと駆け回る日々を過ごす。取材で児童らは、手のひらサイズのデジタルカメラを使用する。初心者のやりがちなミスがシャッターを押した時の手ぶりと写真の傾きだ。小嶋カメラマンは対策として「脇を締めてシャッターを押す」「背景にある柱や桟が斜めに傾いてしまってないかを必ずチェックする」と教えてくれた。

児童らは、身ぶり手ぶり、笑顔、さらに身ぶり手ぶりを交えて一生懸命話す写真の方を見栄えがするよね」。記者撮影のような静止した写真をカメラに収めるか。小嶋カメラマンは、人が話をする場面を例に挙げた。「無表情よ

## 現場を予想“一瞬”狙つて

先生役を務めるのは、豊橋総局の小嶋明彦カメラマン（三毛）。入社十五年目で、一瞬のミスが命取りになるプロ野球の撮影経験もある。愛知県の東半分を占める三河地方の

話題を行い、カメラ片手に海上へ山へと駆け回る日々を過ごす。取材で児童らは、手のひらサイズのデジタルカメラを使用する。初心者のやりがちなミスがシャッターを押した時の手ぶりと写真の傾きだ。小嶋カメラマンは対策として「脇を締めてシャッターを押す」「背景にある柱や桟が斜めに傾いてしまってないかを必ずチェックする」と教えてくれた。

児童らは、身ぶり手ぶり、笑顔、さらに身ぶり手ぶりを交えて一生懸命話す写真の方を見栄えがするよね」。記者撮影のような静止した写真をカメラに収めるか。小嶋カメラマンは、人が話をする場面を例に挙げた。「無表情よ



デジタルカメラを使って撮影練習をする児童たち=いずれも愛知県豊橋市の豊橋総局

編集会議で取材テーマを決めた愛知県豊橋市の小学生6人。作業日程も決まり、次は念願の取材だ。だがその前に、忘れてはいけないのが写真撮影の練習だ。小学生と中日新聞記者による新聞づくりの2回目は、記事の内容を引き立てる写真撮影の仕方を学ぶ。(那須政治)

# どんなシーン撮ろうかな?



NIE全国大会名古屋大会は、2017年8月に名古屋市で開かれます

◆アレルギー対応フォーム  
ラム 愛知教育大などは11月5日午後1時から愛知県刈谷市で「地域連携フォーラム」を開く。学校での対応の報告や、アナフィラキシーショックへの対応の

実技演習などがある。無料。希望者は所定の用紙で10月28日までに愛教大研究連携社会連携係にファックス(0566-95-0012)で申し込む。詳細と申込用紙のダウンロードは、愛教大のホームページ(大学名で検索)で。

## 自慢話

取材を終えて、小学校の正門に手をかけた時だった。「待ってください」と声が聞こえた。振り返ると、全速力で走ってきたのか女の子四人が息を切らしている。「うちの学校には水族館もあります。言いそびれちゃって」とこの日、浜松市の小学生に学校や地域の自慢を聞いた。「徳川家康が隠れた寺がある」など、いくつも披露してくれた。まだ言いたりないと、私を追いかけてきたのだ。

以前訪れた名古屋港近くの小学校では、港湾事業を成功させた労働者の話を聞いた。富山県の民謡の里では「次の世代に引き継がたい」とともに、「よく知ってるね」と目を丸くする先生もいた。小学校の地域学習は戦後からずっと続く。私自身も、地域について学んだはずだ。でも、いつからだろう。うちの地域には何もない」と口にするようになつたのは。引き留めて伝えたいと思った彼女たちを思い出すと、軽々しく「何もない」とは言えない。(加藤祥子)

## 誰もが学びやすく④

通常学級に在籍する比較的軽い障害のある子が、一部、障害に応じた特別の授業を受ける「通級指導教室」。2015年度、全国の小学校で通級指導を受けた子は約8万人。難聴や言語障害、発達障害など、さまざまな子が対象になりうる。

岐阜県白川町の白川小学校は児童63人のうち9人が週1、2時間、通級指導教室に通っている。同町では、障害の有無というより、発達面で気になる子を対象とし、子どもが「困った」と思うことを減らす場と位置付けている。9月のある日、女児が、鈴木美幸教諭(44)の通級指導を

受けていた。女児は早合点し、すぐ行動してしまう傾向がある。

教室では、質問を聞き取り正しい選択肢を選ぶ練習をしたり、授業中に何かをしたいと思ったときには、教諭に許可を取るよう教わったり。うまくできたときには鈴木教諭が「できたね」とほめる。

文字を読むのが苦手な男児には、視線の定まらないことが原因と分析し、体のぎこちなさが解消できるように運動をしたり、目で文字を追う訓練をしたり。苦手なことを、やみくもに訓練するのではなく、その「困難感」を減らすよう働き掛けたり、困ったこ

とが起きたときの対処法を学んだりする。

適切な指導ができるよう、特別支援教育の専門家の助言を得ている。指導方針は、個別の支援計画に基づき、担任と話し合いながら決めるという。

鈴木教諭は、白川小を拠点に町内の小中学校を回り、通級の指導をしている。白川町教育委員会の綾瀬政昭教育長(64)は「誰もが学びやすい授業づくりと、個別の支援は、どちらも欠かせない柱」と話す。

白川町では、保育園や乳幼児期などの段階から、小さな発達の心配事にも積極的に対



通級指導教室で、児童に声をかける鈴木美幸教諭=岐阜県白川町の白川小

応している。「一人一人にきめ細かく」。その精神が、通級指導にも生かされている。(佐橋大)